

## 伊豆半島河津町梨本・奥原及び上佐ヶ野の石灰岩について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大久保, 純男 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00006070">https://doi.org/10.14945/00006070</a>

# 伊豆半島河津町梨本・奥原及び 上佐ヶ野の石灰岩について

大久保 純男<sup>\*</sup>

卒業研究の地域に含まれる上記石灰岩について、調査したので報告する。  
なお調査に当って特に注意した点は石灰岩の層位であり、化石と附近の地質  
とをそのよりどころとした。

調査に当って常に御助言と御指導とをたまわった当教室の鮫島輝彦助教授  
に厚く御礼申し上げる。

## 1. 分布地域

東海道線三島駅から東海バスで下田街道を南下し、天城トンネルを通り半  
時間で梨本につく。石灰岩はこの梨本停留所の東西に分布し、西側のものは  
停留所から20m程バス道路を戻った山側に南面して小規模な露頭を呈し、  
東側のものは停留所の下を流れる奥原川を30m程逆のぼった左岸に高さ1  
0m、長さ130mに達する大露頭をなして存在する。両者は共に海拔16  
0m附近に位置している。又、これらの延長と思われるものがN63°Eの方  
向（これは両石灰岩の走向と一致する）高度400m附近の鉢ノ山南西麓に  
比較的広く分布し、他の一つはハリス記念凶書のある慈眼院裏の谷、高度2  
00m附近の川底に小さく露出している。以上四ヶ所の石灰岩はいずれも岩  
相及び化石が類似しているため同位相のものと思われる。

以上の石灰岩と岩相の類似するものが上佐ヶ野の佐ヶ野川の河底に安山岩  
にはまり込んだような状態で、小さな塊状をなし点々と2m程続いているの  
が発見された。これには湯ヶ島層下部層と思われる緑色凝灰岩の礫が含まれ  
ている。以上の他石灰岩ではないがこれと関係があると思われる酸化マンガ  
ンが佐ヶ野鉾山に露出している。なお鉢ノ山の北東、佐ヶ野鉾山事務所から  
北西300mの小川の底に石灰質の砂岩が露出している。これは梨本の石灰  
岩と互層をなす砂岩に酷似している。

## 2. 構造

上佐ヶ野以外の石灰岩及び石灰質砂岩は下部及び中心部のもの程石灰分に  
富み、上部・末端部に向かって漸移的に砂質になっており、南西-北東に長  
く角閃石英安山岩の下部に挟在するものと思われ、南部で小規模な船底状構  
造をなしている。厚さは15m以下と思われ最下部は湯ヶ島層下部層の緑色

<sup>\*</sup>教育学部四年

粗面岩・玄武岩質安山岩に接している。(第1図)

以上のことから慈眼院裏と鉢ノ山南西のもの及び北東の砂岩は低く開析された部分に表われた窓であり、二本の小断層によって切られる以外は南部で船底状構造を示し、奥原川の露頭の北限から鉢ノ山南西露出まで背斜構造に変わりつつゆるく上昇し、ここに至って再び水平になり鉢ノ山北東の砂岩に続くものとみられる。

### 3. 組織

石灰岩は上佐ヶ野のもの以外は一般に砂質であり、下部では砂質石灰岩と砂岩の互層をなしている。砂岩の部分は非常に薄く0.5~2mm程度であり、上部に行くに従って全体に砂質となり5~10cmの層理を示すこともあるが、鉢ノ山中腹のものは砂質の部分と石灰質の部分とが不規則に混じっている。全体に不規則な力を受けブロック状に割れており、真の走向、傾斜を示さないものが多い。

色は薄い赤褐色を呈し下部では有孔虫、上部では貝化石を多量に含む。

石灰岩には緑色の粗粒の砂を含み、時に0.5cm位のものも含まれている。

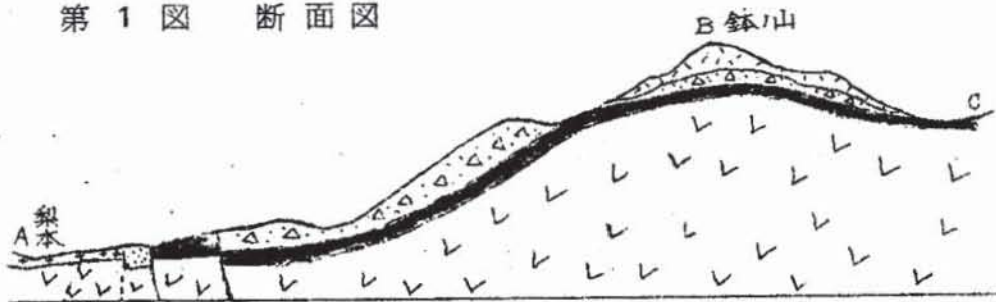
鉢ノ山中腹では珪化帯が存在する。

上佐ヶ野のものは他の石灰岩と違い、緑灰色で多量の円礫及び黄鉄鉱の小粒を含んでいる。

### 4. 附近の地質

地質図(第2図)に示すように石灰岩層の附近は全部角閃石英安山岩の溶岩・碎屑岩より成り、西は緑色粗面岩、南は玄武岩及びプロピライトが広く分布する。東は玄武岩質安山岩及びその下部に緑色凝灰岩が窓をなしている。この凝灰岩は鉄化作用を受け、金鉄・黄銅鉄・黄鉄鉄を胚胎する。北は白浜

第1図 断面図

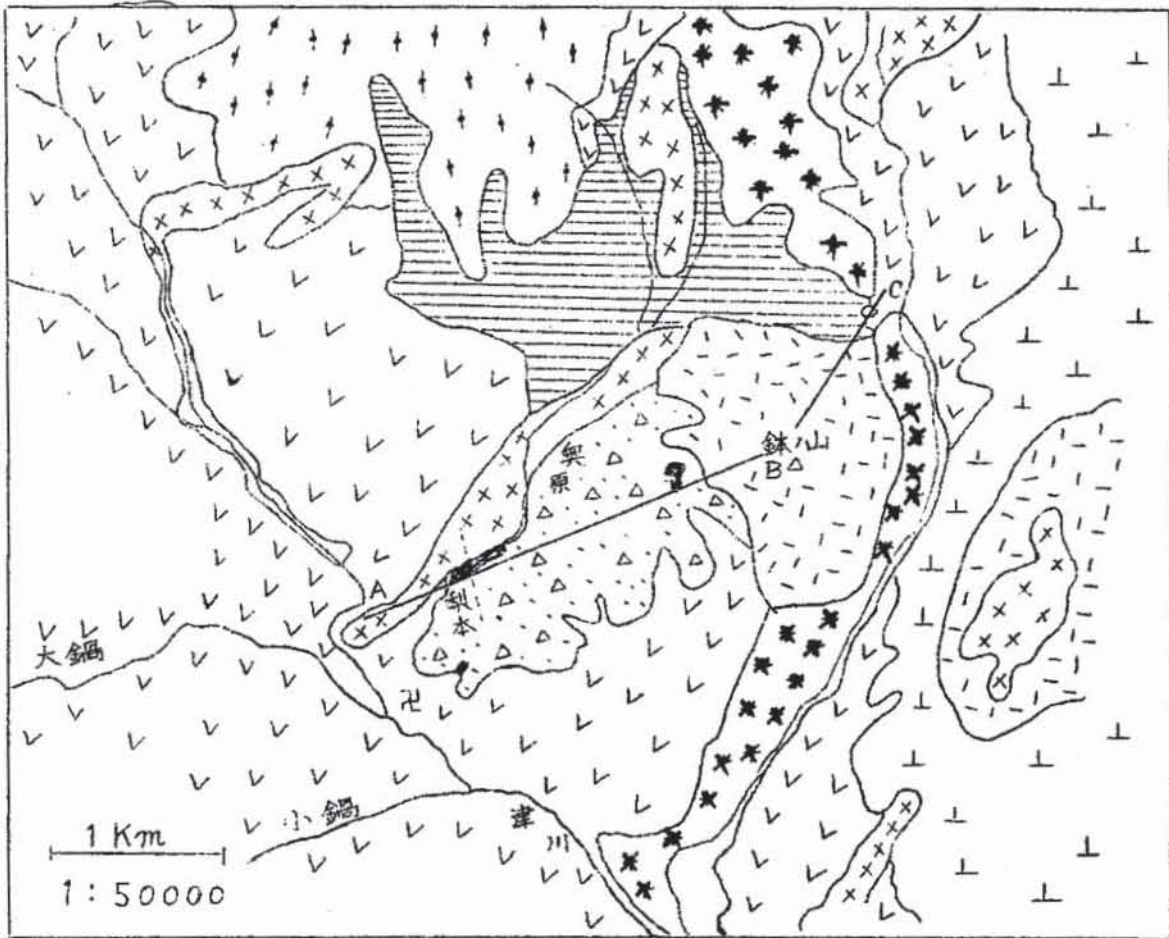




層群と思われる白色凝灰岩・礫岩・砂岩がこれに接している。

本地域の地質の大要は最下部に湯ヶ島層下部層、その上に角閃石英安山岩の熔岩・碎屑岩より成る上部層、この下部に砂質石灰岩が挟在し上部層の上位に白浜層が分布するものと思われる。これらを覆い天城火山熔岩、さらに現世火山の溶岩が分布する。上佐ヶ野のものは、ここから北に佐ヶ野鉾山の酸化マンガングの含まれる部分に続いていたと思われる。ここにも湯ヶ島層の上部層と下部層との不整合面が存在していると思われる。

第2図 地質図



- |   |        |   |          |   |         |
|---|--------|---|----------|---|---------|
|  | スコリア   |  | 安山岩質角礫岩層 |  | 湯ヶ島層上部層 |
|  | 現世火山溶岩 |  | 白浜層      |  | 断層      |
|  | 三筋山溶岩  |  | 湯ヶ島層下部層  |   |         |
|  | 登尾山溶岩  |  | 石灰岩層     |   |         |

## 5. 化 石

調査が完全でないが、石灰岩層のあらゆるホライゾンについて約50面の研磨片をスンプ法により観察した結果では、*Lepidocyclina*, *Micgypsina* は発見出来なかったことを特筆して良いと思う。貝化石としては *Cardium* sp., *Conus* sp. が含まれている。これらの他石灰藻・苔虫・小型有孔虫・サンゴが多数見られる。

*Micgypsina* については、1931年 半沢博士が梨本の石灰岩から報告し今日にいたっており、最近では渡部景隆氏編集による南伊豆の地層対比表で、遠藤正夫氏が当地域の石灰岩を *Lepidocyclina* 化石床としている。筆者は以上二種の高等有孔虫を発見出来なかったが、これは当地域の石灰岩には全く存在しないのか、存在する場合は集団を成さず少数が点在するものと考えられる。

貝化石からは石灰岩堆積当時の環境が波が荒らく砂礫の多い浅海底で、気候は温暖であったと推定できる。

なお化石についての調査は今後もひきつづき行なっていくつもりである。